

石狩のさやえんどう

市民にはあまり知られていませんが、石狩市は、さやえんどうの生産では、全道一の産地です。

■はじまり

昭和53（1978）年頃、石狩湾新港造成の用地買収で耕地面積が減少した花畔地区^{はんなぐろ}の農家数軒が、小面積で栽培できる収益性の高い作物として、取り組んだのがはじまりでした。当初は、選別も4～5名のパートを雇って、卓球台の上にビニールを敷いて行うような状態でした。



■発展

浜風の吹く花畔は、冷涼な気候を好むさやえんどう栽培に適しており、収益性も高かったため、しだいに栽培農家も増えていきました。昭和55（1980）年には、樽川石倉倉庫に、ベルトコンベアーによる本格的な共撰施設がつけられて生産を後押しし、昭和58年頃には、栽培面積が35ha（350,000m²）、販売額も2億円を超えるようになりました。当初、札幌中央卸売市場中心だった販売は、東京、名古屋、大阪方面にも拡大して、7月上旬から10月下旬まで出荷し、市場からは最高級の評価をうけて、秀品は高級料亭で使われるようになりました。栽培に必要な多くの労働力が、花川団地からのパート雇用により得られたことも、成功の一因でした。

■現況

花畔地区では、連作障害（※さやえんどうは最も連作障害の出やすい作物）と新港用地買収により、近年は栽培面積がしだいに減少^{ひく}してきています。

それに対応して、JAいしかりでは、美登位^{ひとくい}、北生振地区^{きたおやふる}での栽培を推進しており、この地区での栽培面積は増加しています。

最近の栽培面積、生産量及び販売額は、下表のとおりです。

（石井滋朗）

	平成11年	平成13年	平成15年	平成17年
栽培面積 (ha)	16	11	11	9
生産量 (t)	66	50	74	64
販売額 (千円)	128,245	92,275	124,216	112,252

（石狩市農水産課資料による）

※このファイルの作成にはJAいしかりのご協力を頂きました。